

# 乙 頁

第144号 通巻25巻 第5号

2006年1月5日 発行

守山市立埋蔵文化財センター

Tel・Fax 077-585-4397

〒524-0212

守山市服部町2250番地

## <<<<シンポジウム「國・淡海に建つ」開催のお知らせ>>>>

近江南部地域には、弥生前期の水田が見つかった服部遺跡や、巨大な環濠集落の下之郷遺跡や二ノ畦・横枕遺跡、巨大な建物が集中して見つかった伊勢遺跡や栗東市下鉤遺跡、さらに24口の銅鐸が埋納された野洲市大岩山遺跡などがあります。これら多数の弥生遺跡からムラからクニへ発展する姿が窺われます。今回のシンポジウムでは、野洲川下流域の弥生時代から古墳時代の遺跡から近江における「國」の成立過程とその背景について検討します。

### 記

日時 平成18年2月19日(日)午後1時から午後4時30分まで

場所 守山市民ホール集会室(300人収容・自由参加)

基調報告 「下鉤遺跡の調査」佐伯英樹氏(財)栗東市文化体育振興事業団

「大岩山銅鐸とその時代」杉本源造氏(野洲市教育委員会)

「伊勢遺跡の調査」伴野幸一(守山市教育委員会)

講演 「近江と大和」水野正好氏(奈良大学名誉教授・(財)大阪府文化財センター理事長)

「弥生時代の近畿と近江」森岡秀人氏(芦屋市教育委員会)

### シンポジウム「國・淡海に建つ」

現地探訪 日時 平成18年度2月18日(土)午後1時から午後4時30分

コース 下之郷遺跡、伊勢遺跡、守山市立埋蔵文化財センター  
銅鐸博物館、大岩山古墳群、栗東市出土文化財センター

定員 先着60名

申込要領 平成18年1月23日(月)より受付

往復葉書に氏名・住所・連絡先(Tel)を記入のうえ申込み下さい。

申込先 守山市教育委員会文化財保護課 電話 077-582-1156

〒524-8585 守山市吉身二丁目5番22号

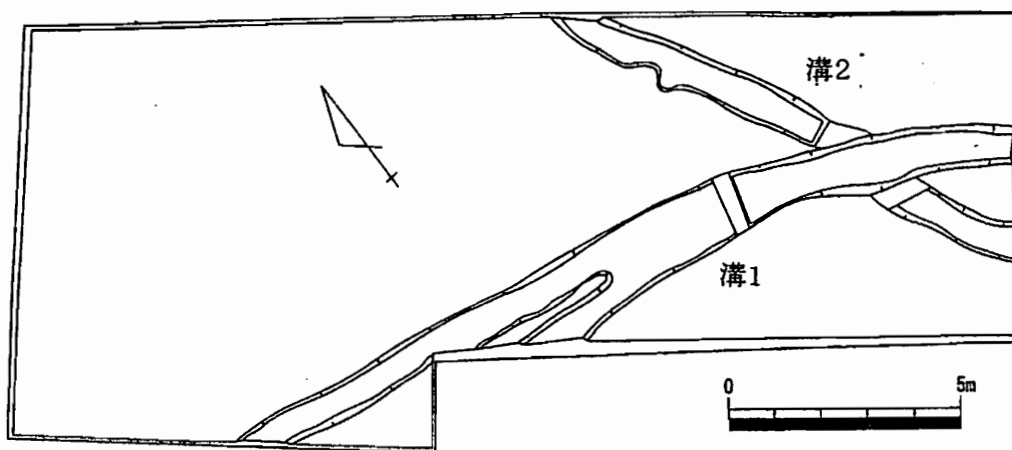
# 発掘調査だより

## 1 二町鏡遺跡の調査

二町町字里ノ内で、宅地造成に先立ち発掘調査を実施しました。道路部分の約 230 m<sup>2</sup>を対象に調査を行った結果、耕作土直下で 2 条の溝を検出しました。南東壁から西に向かつて弧状に伸びる溝 1 は、途中で枝わかれしており淡灰色粘土が堆積していました。溝幅は 0.8m~1.5m で深さは 6 cm~24cm を測り、西側にむかって浅くなっていました。

溝 2 は南から北に向かつて伸び、幅約 0.8m で、深さは 7 cm~12cm を測ります。溝 2 からは遺物は出土していませんが溝 1 に切られており、それに先行する溝と考えられます。溝 1 からは土師器や須恵器が出土しており、古墳時代後期の溝と推定されます。

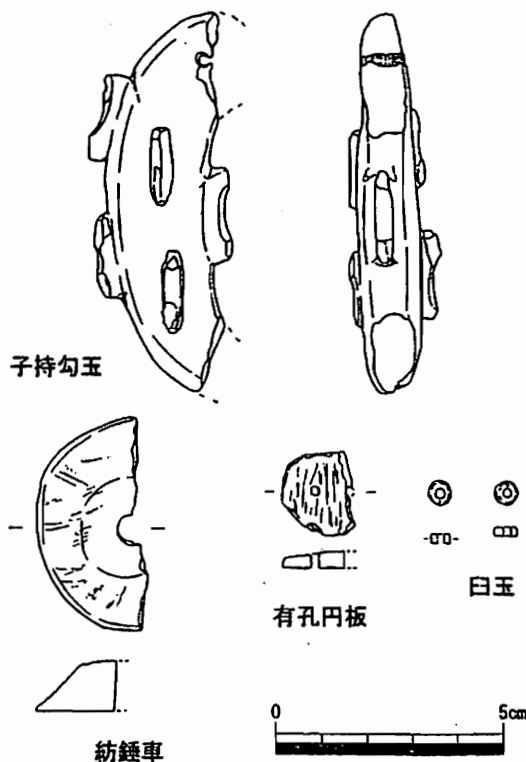
二町鏡遺跡では既往調査で室町時代の屋敷跡などが多数検出されていますが、古墳時代にも集落があったことが推定されます。(畑本)



▲ 二町鏡遺跡平面図

## 2 四反田遺跡の調査

宅地造成に先立ち 8 月末から 10 月下旬にかけて実施した四反田遺跡の調査では、多数の滑石製品が出土しました。滑石製品には子持勾玉、こもちまがたま 紡錘車、有孔円板、白玉などがあり、集落内部で使用された祭祀具とみられます。子持勾玉は、大型の勾玉の背部や腹部、両側面に小形の勾玉が付いたものです。子持勾玉は古墳から出土する例は少なく、奈良県三輪山や福岡県沖ノ島などの祭祀遺跡などから出土しているほか、群馬県三ツ寺遺跡など豪族居館から出土する例があります。四反田遺跡では大型の柱穴が多数検出されており、大型の掘立柱建物があったと考えられます。子持勾玉が出土したことから、有力者が住んでいた可能性があります。(大岡)

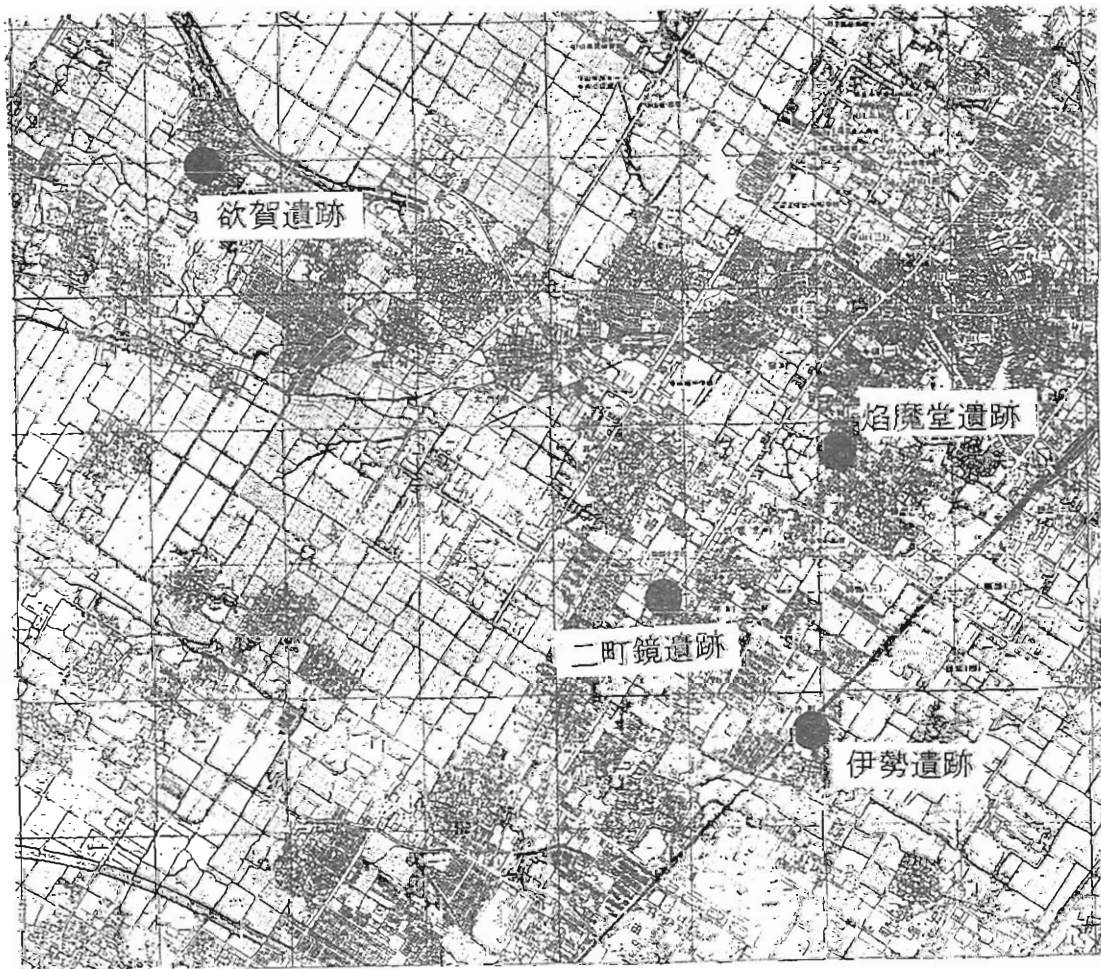


▲ 四反田遺跡出土滑石製品

### 3 伊勢遺跡の調査

共同住宅建築に先立ち、伊勢町字二町田において確認調査を開始しました。調査地は JR 琵琶湖線の踏み切り近くで、昭和 56 年の発掘調査で五角形住居ごかつがいしゅうきょが発見された場所に隣接しています。この住居は短辺約 6 m、長辺約 7 m を測り、5 本の支柱穴を持ち、南東辺中央に土坑があり、典型的な五角形住居です。この住居の床面からは弥生時代後期の土器が多数出土しており、湖南地域の土器編年の指標となっています。今回の調査では、鎌倉時代の掘立柱建物 3 棟と弥生時代後期と見られる竪穴住居 1 棟が検出されました。

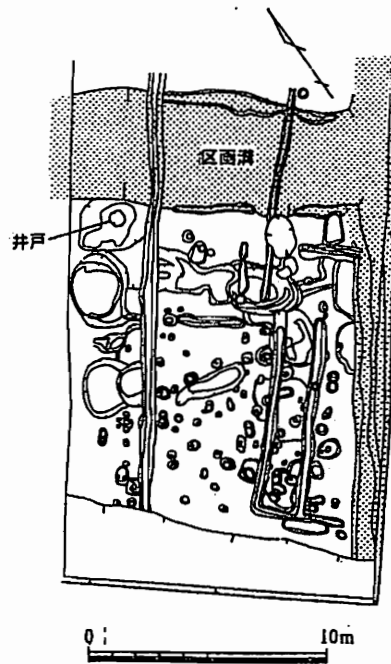
SB-1 は 4 間以上×1 間以上で、柱穴距離は約 2 m を測ります。SB-2 は 3 間以上×2 間以上で、柱穴距離は約 2 m を測ります。SB-3 は 1 間以上×3 間以上で SB-2 の柱穴を切っていることから、SB-2 より新しい建物であることがわかりました。調査区北隅において一辺約 6 m を測る竪穴住居の一部が検出されました。埋土中には土器片が含まれており、弥生後期の竪穴住居と推測されます。南東隅のコーナーは鈍角なので、多角形住居の可能性もあります。今後の調査で明らかにしていきたいと考えています。(伴野)



▲ 遺跡調査位置図

#### 4 欲賀遺跡の調査

区画整理事業に先立ち現在、欲賀遺跡の発掘調査を進めています。これまでの調査で、溝で区画された中世の屋敷地の一部が確認されています。屋敷内からは、井戸や建物の柱穴が多数検出されています。今回検出された遺構は、平成4～6年度と平成15年度の調査で見つかった中世集落の一部と考えられます。欲賀遺跡は大規模な中世の集落遺跡として近年注目されており、今後の調査によってその姿が明らかになるものときたいされます。(小島)



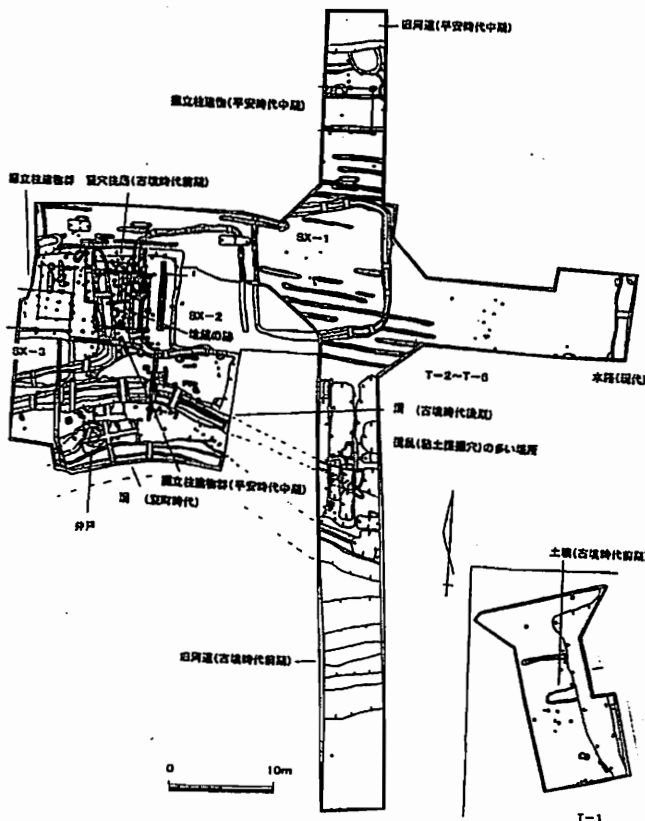
▲ 欲賀遺跡 S-1 区遺構平面図

#### 5 焰魔堂遺跡の調査

宅地造成に伴い、9月下旬から実施していた<sup>えんまどう</sup>焰魔堂遺跡の発掘調査も12月下旬で終了しました。調査の結果、古墳時代から室町時代の遺構を多数検出しました。

古墳時代前期の遺構には、方形周溝墓3基(SX-1～3)と竪穴住居があります。方形周溝墓は、出土遺物からみてSX-1→SX-2→SX-3の順番で造営されたと考えられます。

竪穴住居はSX-2によって壊されており、周溝墓以前に住居があったとみられます。竪穴住居には<sup>しゅうへきこう</sup>周壁溝があり、中央には炉が残っていました。古墳時代後期には溝や井戸が営まれており、井戸底からは完形の須恵器が出土しています。調査地北側では旧河道が検出されており、<sup>りょくゆうとうき</sup>緑釉陶器や<sup>かいゆうとうき</sup>灰釉陶器、黒色土器が出土していることから、古代末から中世にかけて川が流れていたと考えられます。旧河道の南側では4棟以上の掘立柱建物が検出されているほか、室町時代の溝や掘立柱建物がみついています。今回の調査地点は川に挟まれた微高地にあたり、居住地や墓域として絶えず利用されていたことがわかりました。



▲ 焰魔堂遺跡調査平面図

(森山)